



「だ」のつかい方 — 振り返りの宝箱 —

学校長 後明 好美

身の引き締まる寒さの中、清々しい新年を迎えました。地域・保護者の皆様におかれましては、旧年中、本校の教育活動に御理解と御協力を賜り、深く感謝申し上げます。

地域の皆様、保護者の皆様には、このヒガイチを温かく、かつ力強く支えていただいております。まちとともにある学校として、このヒガイチを愛してくださっていることを実感しています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

自らのよさをほめ さらによりよい自分に向かって改善する

前期終業式のことになりますが、朝会で「ふりかえりの宝箱」の話をしました。この1年弱、子どもたち一人ひとりががんばったこと、チャレンジしたことはたくさんあると思います。自分自身で振り返り、うまくできたことや成功したことについては、自分で自分を褒めようと話しました。一方、うまくいかなかったりできなかったりしたこともあったのかもしれませんが、でも、それは「失敗」ではなく「ふりかえりの宝箱」の中の宝であり、自分を成長させるチャンスになるのだと思います。そのとき、「だ」のつかい方を工夫しよう」と話しました。「だって」と使うと、自分への言い訳になってしまいます。「場所が悪かった。」「一緒にやった相手が悪かった。」「天気がよくなかった。」等、言い訳を考えるのは簡単で、誰でもできます。そのようなときには、「だ」のつかい方を変えてみよう」と話しました。「だから」「だったら」と考えると、次への改善方法が思いついたり、新たなアイデアが生まれたり、前向きな思考ができるようになります。プロ野球の元監督 野村克也氏が、『失敗と書いて「せいちょう」と読む』とおっしゃったことは有名ですが、「ふりかえりの宝箱」も同じことだと思います。

頑張った自分や成長した自分を、自分で認めて誉める。そして、「だって」ではなく「だから」「だったら」、そう考えて「ふりかえりの宝箱」を自分の中いっぱいこしようと話しました。

自己肯定感の高いヒガイチのよさ

横浜市学力学習状況調査のデータから見ると、本校の子どもたちは「自分のことが好き」「自分にはよいところがある」という質問項目に肯定的に回答した児童が比較的多く、市平均に比べて自己肯定感がやや高い傾向にあるといえます。日本の子どもたち、そして横浜の子どもたちもなのですが、自己肯定感が低いことがさまざまなメディアで取り上げられることが多い中、これはとても好ましい傾向だと思います。「自分ってちょっと素敵」「そんな自分、なかなかいいな」と自分の中でとらえられることが、新しいことにチャレンジしたり、困難なことにも立ち向かったりするときの原動力になる」と考えるからです。上述についても、自分のことを肯定的に認める自分があるから、失敗した部分を的確に受け止め、「だからこうしよう」「だったらこうしよう」と次への見通しをもつことができるのではないのでしょうか。自己肯定感は、人の成長を支えるとても大切なものだと言えるのだと思います。

年末に開催された「ヒガイチ ビッグショー」でも、自分の好きなことや素敵なことを楽し気に発表し、その発表に笑顔で拍手を送る子どもたちの姿を見ることができました。自分のよさを素直に表出でき、かつ認め合えるのは、ヒガイチのよさだと考えています。その上で、時に失敗や改善すべきことを自分でしっかりと受け止め、次へつなげていける人になってほしいです。

本年も、子どもたち一人ひとりのよさや輝きを表現できる場を学校生活で多く設けていきたいです。

今月もどうぞよろしくお願い申し上げます。